

季節のおたより

立秋が過ぎ、暦の上ではもう秋です。まだまだ暑い日は続きますが、少しずつ日が短くなり、夜には虫の声が聞こえてきました。さあ手仕事の季節がやって参りました。スウェーデンひつじの詩舎から、羊毛の手仕事を楽しめる素敵なキットをご紹介します。

今号から吉良先生による、「シュタイナー教育の視点からとらえる子育てや手仕事のお話」も連載でお届けしていきます。



第3弾!!! 手作りフェルトの妖精「秋の妖精」

100セット限定復刻

お待たせいたしました！秋の妖精が発売となります。秋色の可愛い妖精です。春の妖精と夏の妖精が秋の妖精を待ちわびていたことでしょうね。

キットのフィンウールは石鹸水を使ったフェルティングに最適です。その柔らかさをぜひ体験してください。

秋の妖精：9月18日発売
価格：1800円(税抜)

第4弾準備中！10月9日に同時発売予定
「冬の妖精」「天使」
手づくりフェルトシリーズも最後になります。クリスマスプレゼントにも間に合いますね。



結び人形

—幼い姉妹と赤ちゃんとのやさしい時間をイメージして—

ウォルドルフ人形の中で、一番最初に学びたい、基本となる人形は結び人形です。ふわふわした羊毛が結ばれて、顔や手足になり、シンプルな人の形になった時、ファンタジーの世界がもう、そこに始まります。 てのひらに 生まれてくる命！作ってみませんか。



価格：2,480円(税抜)
姉妹 12cm,10cm と赤ちゃん 7cm

サーラ研究室より サーラノートが発売されます♪

10月下旬頃、サーラ研究室より「サーラノート」が刊行されます。

どのような内容なのか、今からワクワクしますね。

今回「季節のおたより・秋号」とともにサーラ研究室よりお知らせをつけさせていただきます。



「だいすきなウォルドルフ人形」お写真大募集！

1986年10月26日に「ウォルドルフ人形の本」が出版されました。これを記念して10月26日を“ウォルドルフ人形の日”としてお祝いしたいと思います。お人形のいる風景や、大好きなお人形と一緒に写した写真、遊んでいる様子の一枚など、皆さんの思い出に残る写真を、メールにて募集いたします。

下記アドレスに、お名前（ペンネームも添えて）とコメントをお寄せ下さい。詳しくはホームページやブログ、フェイスブックなどでも紹介いたします。ぜひご応募ください。

(メールアドレス photo@s-hitsuji.co.jp)



ウォルドルフ人形に会いに行こう 作品展のお知らせ

「スウェーデンひつじの詩舎の小さな人形たち」

子どもの本とおもちゃ 百町森 (静岡県静岡市葵区鷹匠 1-14-12 Tel 054-251-8700)
9月18日(土)~10月20日(日) 10:30~18:00 月・火定休日(月・火が祝日の場合は営業いたします)
ワークショップ・9月28日(土) ぼあぼあマリヤを作ろう(担当:渡辺)
※お申し込みお問い合わせは百町森まで

キャラバン ~東京~

日 時: 11月26日(火)~29日(金) 11:00~20:00 (初日 13:00~ 最終日 17:00 終了)
場 所: 明日館 東京都豊島区西池袋 2-31-3
ワークショップを行います。(随時) ぼんぼん鳥・干支のネズミ
(お問合せ: スウェーデンひつじの詩舎 Tel 045-881-6900)

今年は、シュタイナー教育 100 周年！1919 年にウォルドルフ学校が創立されてちょうど 100 年の記念すべき年です。ドイツで始まったこの教育は世界中に広がっていき、日本でも多くの関心を集めています。

教育と芸術が深く結びつき心豊かに学べる教育とは、子供に携わる大人の役割とは、どの様なことなのでしょう。

シュタイナー教育の理念を背景に持つ「スウェーデンひつじの詩舎」の手仕事も、そこに何度も立ち返り学びたいとの思いから、吉良先生にシュタイナー教育の視点からとらえた子育てや手仕事のお話を連載していただくことになりました。是非じっくりとお読みください。

シュタイナー教育から見てみよう No1

「手本と模倣とお人形」

「手本と模倣」。シュタイナー幼児教育が大切にしていることのひとつです。人間は生まれてから時間をかけて、人間になっていく必要があります。体のいろいろな器官が本来の形に形成され、その機能を獲得し、必要な運動能力を身につけていきます。人間になっていくという課題を遂行していくために、乳幼児が生まれながらに持っている素晴らしい能力があります。それは無意識に「真似」をするという能力です。親、家族、幼稚園や保育園の先生や友達、自分の周りにはいる人間は、その子どもにとって「人間とは何か？」ということを知り、身につけていくための「お手本」なのです。その「お手本」を子どもたちは無意識に真似して、人間になっていきます。

小さい子どもに接したことがある方は、自分のしていることを子どもが真似することをご存知だと思います。お母さんが使っているその杓文字でごはんを茶碗によそいたい、お父さんの使っているそのボールペンで書きたい、砂場であの子の使っているバケツを使いたい、といった直接的な模倣から始まり、3歳を過ぎるといろいろな「ごっこ遊び」を始めます。お母さんごっこ、幼稚園ごっこ、お寿司屋さんごっこなどです。注目すべきことは、ごっこ遊びのモチーフは、働いている大人、お仕事をしている大人であるということ。大人のしている仕事とは、人間が生きていくために必要な営みです。その仕事をしている大人は、人間とは何をやるものか子どもに伝えてくれているのです。

人形と遊んでいる子どもにも、模倣と手本がよく表れています。お母さん役になって人形の世話をしている子ども。その手つき、語りかける言葉、世話をする雰囲気には、その子どものお母さんや、幼稚園の先生の姿が見事に表れています。幼稚園の自由遊びの時間に人形と遊んでいる〇ちゃんを見ると、〇ちゃんのお母さんは、どのように〇ちゃんに接しているのかが、見事にわかってしまうのです。

ルドルフ・シュタイナーは、乳幼児期にたくさん模倣できた子どもは、大人になった時に自由な人間になると言っています。誰かに仕向けられた遊びをするのではなく、自発的な模倣衝動を通してたくさん遊べた子どもは、自由な人間として、未来の社会をよくしてくれることでしょう。子どもたちの傍にいる人形は、模倣を通して人間の営みを実際に行う行為していく絶好のパートナーであり、子どもの友人です。その人形が、身近な人の愛情のこもった手仕事によって生まれた人形であったら、それはどんなに素晴らしいことでしょう。

2019年8月
吉良 創

プロフィール・吉良 創 (きはらはじめ)

1962年生まれ、自由学園卒。ヴァルドルフ幼稚園教員養成ゼミナール(ドイツ、ヴィッテン)修了。南沢シュタイナー子ども園で12年間クラス担任。現在、滝山しおん保育園園長、南沢シュタイナー子ども園理事、日本シュタイナー幼児教育協会理事、ライアー響会代表。国内外でシュタイナー教育、ライアーに関する講座、講演、コンサート、執筆などを行っている。



一般社団法人 スウェーデンひつじの詩舎
スペース ペレのあたらしいふく

〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2

Tel:045-881-6900 Fax:045-881-6665

*http://www.s-hitsuji.co.jp/ *ブログ・FBもご覧ください。